

2010年6月

第62回 通常総会

5月28日・札内福祉センター

小麦乾燥施設など 14億円の資産取得へ

まず加藤組合長が農業情勢や本組合事業を総括し、「昨年は春耕期の降雨で全作物に湿害がみられ、小麦をはじめイモやビート、野菜の収量、品質が大きく低下しました。当組合では畜産リース事業や長ねぎ増産のための設備投資を行い、事業部門の合理化や経費の節減、作業効率の重視に役職員一丸となって進めてきましたが、21年度の経常利益は5千2百万円余りととどまり非常に厳しい1

本組合の第62回通常総会が5月28日午前9時から札内福祉センターで開催されました。総会には正組合員180名が出席（委任・書面議決を含む。出席率79%）し、平成21年度事業報告、22年度事業計画の設定など8議案を審議し、全議案が原案通り可決決定しました。役員の選任では理事8名、監事3名が承認され、引き続き開催された理事会で新たな代表理事組合長に高橋光秀氏、専務理事に高橋秀樹氏が互選されました。



総会で挨拶する加藤組合長

総会議長に中村富士男さん（日新二、本田公一郎さん（上稲士別）を選出し、議事に入りました。
21年度事業報告では、当期未処分剰余金（前期繰越剰余金を含む）が5千6百万円、処分案では利益準備金、特別積立金等を除いた部分について出資配当（0・8%）、事業分量配当（2千万円。当期剰余金の43%）の明細が示され、財務健全化のため出資配当の全額と事業分量配当の40%を出資金に充当する提案があり、賛成多数で可決されました。
22年度の収支計画では、事業総利益が4億8千7百万円、経常利益は1千2百万円、当期未処分剰余金は2千2百万円を見込んでいます。新年度の固定資産の取得については小麦の乾燥貯留調整施設

未処分剰余金 5千6百万円

年でした。また、組合員の皆様の結集により、農協事業全般が円滑に進行できたことに感謝申し上げます。など挨拶。

議案8件を原案通り可決



業(多様な肉牛経営実現支援事業として、繁殖育成牛舎(2棟)、黒毛和種の経産妊娠牛計25頭を当組合が取得し、組合員(2戸)に貸付(リース)する事業を実施します。

新年度の農協運営については、「長期的視点による経営戦略の策定や部署間の横の連携を重視した職場づくり、人事管理制度の樹立に取り組み、一層の経営効率化に努める」ことを基本方針とし、各部の詳細の事業計画の説明が行われました。

が事業費4億4千4百万円、この施設の機械設備が9億1千9百万円。国の22年度強い農業づくり交付金を活用して建設し、収益性の高い品種「きたほなみ」の受入れ体制の確立に努める計画です。

また、小麦コンバインを増設するほか、馬鈴薯倉庫や選別施設の改修工事などを予定し、固定資産取得の総事業費は14億円余りを見込んでいます。

また、新規参入円滑化等対策事

提案された8議案が全て賛成多数で可決され、最後に加藤組合長が「国内では口蹄疫の発生が大きな広がりを見せ、道内経済は景気低迷が続くなど、農業を取り巻く環境は依然厳しい状況です。そんな中、組合員の皆様個々のご協力と結集が不可欠。今一度、農協は自分たちの組織という意識を持っていたいただき、農協運営に協力をお願いしたい」と組合員の理解と結集を求めました。

総会後の理事会で常勤理事を選出するとともに、委員会、各種団体の役員を下記の通り決定しました。
(敬称略)

高橋光秀組合長 高橋秀樹専務体制へ

代表理事組合長	高橋 光秀
専 務 理 事	高橋 秀樹
第 1 理 事	高橋 孝二
第 2 理 事	伊東 俊之
第 3 理 事	澤田 孝
第 4 理 事	小野田伸二
第 5 理 事	早苗 智也
信用担当理事	奥井 伸一

代 表 監 事	山口 隆史
監 事	杉本 悟
員 外 監 事	勝山 哲

管理部委員会		経済部委員会	
委員長	高橋 孝二	委員長	伊東 俊之
委 員	伊東 俊之	委 員	高橋 孝二
	澤田 孝		澤田 孝
	小野田伸二		小野田伸二
	早苗 智也		早苗 智也

受 検 委 員 会 委 員	高橋 光秀・伊東 俊之
青年部・女性部担当	早苗 智也
東 工 連 理 事	高橋 光秀
十勝酪畜対協常任委員	高橋 光秀
幕別町農業委員	高橋 秀樹

就任にあたって



代表理事組合長

高橋 光秀

忙しい春耕期が過ぎ、組合員の皆様におかれましては、豊穣の秋への願いを込めつつ、日頃の圃場管理に多忙な日々を送られていることと拝察申し上げます。

さて、当組合は今年役員改選期を迎え、通常総会後の理事会で私が組合長に推挙されました。その責任の重さに身が引き締まる思いです。

さて、国の農業政策が近年めまぐるしく変化し、品目横断的価格政策から戸別所得補償制度への移行が当面の課題となります。当組合として、組合員の視点に立ち、制度変化に柔軟に対応できる体制の構築を進めなければなりません。

当組合は十勝の他の組合と比べて比較的小さな組織ですが、それだけに部署間の横の連携を重視し、小回りのきく組織とする必要があります。職員との信頼関係を基本に、機動力ある組織づくりを進めていきたいと思っています。

J Aの主人公は組合員の皆様です。組合員みんなが知恵を出し合い、農協の将来像を語り合いながら方向を定めています。そのような「組合員全員で作り育てるJ A」を目標に、組織運営を進めていきたいと考えております。

歴代組合長をはじめ、先代の方々がこれまで築いてこられた組合の歴史に敬意を表しますとともに、札内の地域農業を維持発展させることに全力を傾ける所存です。組合員の皆様には、組合に結集され、限らないご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。



専務理事

高橋 秀樹

作物の生育旺盛な時期を迎えました。春先の天候不順により、農作業等の遅れで不安なスタートとなりましたが、その後好天に恵まれ、順調に回復に向かっているように思われます。組合員の皆様には圃場の管理作業等でお忙しいことと拝察申し上げます。

さて、この度の役員改選に伴い、専務理事という大役をお引き受けすることとなり、ひしひしと責務の重大さを感じております。微力ではございますが懸命に務めて参りたいと考えております。どうかよろしくお願い致します。

近年、農業を取り巻く環境が著しく変化しております。その中で当J Aは都市近郊の地域にあり、畑作、野菜、花卉、乳牛、肉牛といった多種多様な形態の農業経営が営まれており、組合員の皆様のニーズも多様です。J Aはこのような多様なニーズに応えつつ、組合員の営農と生活を支援するとともに、地域に根ざした活動が求められています。

総合事業であることから、J Aと組合員との強い結びつきと安定した経営、財務基盤の適切な経営管理を図ることが必要です。これを支える基本は職員であり、職員個々が持つ能力を最大限に発揮できる職場づくりに取り組み、健全経営につなげていきたいと考えております。

組合員の皆様に信頼される事業展開を志向してまいりますので、組合員の皆様のご理解、ご協力を切にお願い申し上げます。就任にあたってのご挨拶とさせていただきます。